

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUTAM分科会 更新日 2012/12/2
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際理論応用力学連合

(欧文) International Union of Theoretical and Applied Mechanics

(略称) IUTAM

日本学術会議加入年(西暦) 1950 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) International Union of Theoretical and Applied Mechanics

	会長	事務局長		
(氏名)	Prof. V. Tvergaard	Prof. R.M. McMeekin		
(国)	Denmark	USA		

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

総会において理事の中から選出される。

加入国・地域の数 51 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

USA, UK, France, Germany, Japan, China, Netherland, Austria, Denmark, India, Canada

国際学術団体のホームページURL http://www.iutam.org

国際学術団体の年間運営経費 約125,000(USD)

日本の分担予定額[事務局で記入] 515千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2012	ICTAM Congress	Beijing(China)	1561	not available	
2010	IUTAM Symposium on Dyanamic Modelling and Interaction Control in Virtual and Real Environments	Budapest(Hungary)	45	5	
2008	ICTAM Congress	Adelaide(Australia)	1100	90	
2006	IUTAM Symposium on Computatinal Physics and New Perspectives in Turburence	Nagoya(Japan)	104	66	
2004	ICTAM Congress	Warsaw(Poland)	1515	89	

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	IUTAM General Assembly	Beijing (China)	not available	神部勉	4
2010	IUTAM General Assembly	Paris (France)	30	神部勉	3
2008	IUTAM General Assembly	Adelaide(Univ. of Adelaide)	34	神部勉	1
2006	IUTAM General Assembly	Providence(USA)	31	神部勉	1
2004	IUTAM General Assembly	Warsaw(Warsaw Univ.)	63	上谷宏二	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

Annual Report(1/year), News Letter(2/year), Proceedings of IUTAM Symposia(8 in 2009), Congress Proceedings(Springer, 1/4years)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>ICSUアフリカ支所と協力して、アフリカ数理科学研究所を南アフリカに設立することを提言し、2004年に実現させた。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>国際極地年(2007-2008)のsummer schoolに参画、支援。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>ICSU アジア・太平洋支所と協力して、中国に理論応用力学国際センター設立を支援。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>IUTAM準会員というメンバー資格(Associate Membership)を新たに設けて、発展途上国の参加を容易にする方策を2008年総会で決定。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>ICSUおよびそのCommitteeである COSPAR, SCOPE, SCORに代表委員を参加させて、宇宙、環境、海洋の研究組織と連携を図っている。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
Bureau	神部 勉	2004	
General Assembly Members	岸本喜久雄	2011	
General Assembly Members	松本洋一郎	2011	
General Assembly Members	西村直志	2011	

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUTAM分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本機械学会	約38000	http://www.jsme.or.jp
土木学会	約35000	http://www.jsce.or.jp
日本建築学会	約35000	http://www.ajj.or.jp
地盤学会	約11000	http://www.jiban.or.jp
応用物理学会	約24000	http://www.jsap.or.jp

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	IUTAM分科会
所属分野別委員会	機械工学委員会, 土木工学・建築学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事
岸本喜久雄	松本洋一郎	菱田公一

会員数	連携会員数	特任連携会員数
3	13	1

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

1. 国際組織IUTAMの正規メンバーとして総会, 理事会, IUTAMシンポジウムほか諸行事に参加。2. 関連学協会と協力して理論応用力学講演会(国内講演会)を主催。3. 流体, 固体の力学を中心とする理論応用力学分野の研究の進展, 課題の把握および将来動向の検討。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/3/8	1. 第61回理論応用力学講演会報告, 2. 第62回理論応用力学講演会企画, 3. 国際対応戦略立案分科会への意見集約, 4. 分科会活動報告, 5. その他
2011/9/15	1. 第60回理論応用力学講演会報告, 2. 第61回理論応用力学講演会企画, 3. 国際対応戦略立案分科会への意見集約, 4. 分科会活動報告, 5. その他
2011/3/9	(第60回理論応用力学講演会合同運営委員会) 1. 講演会開催経過報告, 2. 特別講演, パネルディスカッション等企画, 3. 英文論文集発刊について
2010/6/8	(第59回理論応用力学講演会合同運営委員会) 1. 講演会開催経過報告, 2. 特別講演, パネルディスカッション等企画, 3. 英文論文集発刊について, 4. IUTAM日本代表メンバーの選出について
2009/6/9	(第58回理論応用力学講演会合同運営委員会) 1. 講演会開催経過報告, 2. 特別講演, パネルディスカッション等企画, 3. 英文論文集発刊について
2009/5/1	1. 役員等選出, 2. 第59回理論応用力学講演会報告, 3. 第58回理論応用力学講演会進行状況, 4. 第59回理論応用力学講演会幹事学会について, 5. 委員の推薦について, 6. 分科会活動について, 7. その他

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1. 学術会議ホームページにおけるIUTAM理事会およびICTAM2008-Adelaide会議報告掲載,
2. 理論応用力学講演会講演会および運営委員会, 実行委員会におけるIUTAM活動, IUTAMシンポジウムの紹介.

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1. 国内理論応用力学講演会参加団体との個別連絡によるIUTAMシンポジウム紹介

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1. IUTAM理事会への参画, 代表派遣等の活動および国内講演会の開催等について評価を受けているが, 国内外の活動の連携をさらに密接にすべく, IUTAM理事, コングレス委員等国際委員の戦略的配置を検討している.

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

1. IUTAM Symposium on 50 Years of Chaos: Applied and Theoretical を2011年11月に京都で開催. 2. 2012年3月に原子力学会等と協力し, 理論応用力学講演会(国内講演会)を主催. 3. 東日本大震災の教訓と力学が果たすべき役割についてのパネルディスカッションを第61回理論応用講演会で開催.